

Sustainability Report

サステナビリティ レポート

2024

活動の期間 2023.4 - 2024.3



公益財団法人 岡山県環境保全事業団

発行日: 2024年8月1日

- 01 理事長メッセージ
- 02 法人概要 / 経営理念 / 経営方針
- 03 事業活動内容 / 財務ハイライト / 環境活動の実績
- 04 トピックス
- 06 環境教育の取り組み
- 08 脱炭素の取り組み
- 11 労働災害ゼロの職場づくり
- 12 循環型社会形成の取り組み
- 15 良好な生活環境確保の取り組み
安心して働き続けることのできる職場づくり
- 16 環境負荷削減目標(2023～2024年度)、取り組み結果(2023年度)
本業に関する目標(2024～2026年度)
- 18 本業に関する目標取り組み結果(2023年度)
- 19 代表者による全体の評価と見直し指示
実施体制・組織図 / 環境法規等の遵守状況
- 20 許可事項

取得している主な認証・認定

 エコアクション21 認証番号0011996	エコアクション21	環境	環境省が定めた環境経営の仕組みを構築し、実践する企業を認証・登録する制度(制度創設:環境省、認証・登録機関:一般財団法人持続性推進機構)
	ISO/IEC17025	品質	正確な測定や校正を行う能力を有する試験所や校正機関を認定する制度(認定機関:公益財団法人日本適合性認定協会) 試験所:公益財団法人岡山県環境保全事業団 環境調査分析部 認定範囲:化学試験・産業廃棄物分析(産業廃棄物に含まれる金属等の検定方法)
 2024 健康経営優良法人 Health and productivity	健康経営優良法人 認定制度 (中小規模法人部門)	健康	特に優良な健康経営を実践している企業を認定する制度 (制度創設:経済産業省、認定機関:日本健康会議)
 おかやま 子育て応援宣言企業	おかやま子育て 応援宣言企業	子育て	職員の子育てを応援する取り組みを宣言し、県が登録する制度 (制度創設:岡山県、登録機関:岡山県)
 女性が活躍しています	えるぼし認定	女性活躍	女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定・届出を行った事業主のうち、女性の活躍推進に関する取り組みの実施状況が優良である等の一定の要件を満たした事業主を認定する制度(制度創設・登録機関:厚生労働省)



理事長メッセージ



岡山県環境保全事業団は、快適で持続可能な地域社会の実現に寄与することを目的として、資源循環型社会の形成、良好な生活環境の確保、自然共生社会の形成及び地球環境の保全など、環境の保全及び創造に関する事業を幅広く行っております。

気候変動、生物多様性の損失、汚染の3つの世界的危機とエネルギー危機に直面するなか、我が国においても2050年カーボンニュートラルの実現や2030年のSDGs達成などに向けて取り組みが進んでおり、県内において私たちが果たしていく使命はますます重要になっております。

当事業団では、2024年度から2026年度を計画期間とする「第7期中期経営計画」において、2030年に向け、当事業団のありたい姿を設定し、各事業において中期経営目標を定め、これらの目標達成を通じて地域社会の持続的発展に貢献してまいりたいと考えています。

2023年度は、資源循環事業部門では、2023年10月に完成した「みずしま資源再生センター」において新たに資源再生事業を開始、環境調査分析部門では、岡山市との連携事業

において自然環境調査における豊富な知識や経験を活かした新種の「蛾」の発見、環境創造部門では、2023年5月に移転オープンした環境学習プラザ「アスエコ」の来場者が1年で約7万人に到達するなど、地域社会の持続的発展につながる取り組みを環境負荷の削減も行いながら、着実に進めてまいりました。

このレポートは、当事業団の2023年度の環境経営に関する取り組みをまとめたものです。

当事業団では地域社会の持続的発展に貢献できるよう、職員が同心協働しながら、各事業に取り組んでまいりますので、当事業団に対しまして、引き続き皆さまの御理解と御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

公益財団法人 岡山県環境保全事業団

理事長

吉田 光宏



法人概要

■ 名 称 公益財団法人岡山県環境保全事業団
 ■ 設 立 1974年10月1日
 ■ 役職員数 評議員 14名 理事 9名 監事 3名
 職員 115名

■ 代 表 理事長 吉田 光宏
 ■ 出捐総額 16億2,650万円
 ■ 出捐状況 地方自治体6、企業45、企業組合等5、計56団体

■ 環境経営責任者及び担当者 環境経営責任者：常務理事 田中 勝士
 担当者：総務部 磯山 郁江（連絡先：086-298-2122）



経営理念

わたしたちは環境関連事業を通して
 社会の持続的発展に貢献します

経営基本方針

- ・新しい価値と質の高い環境関連事業を提供します
- ・誠実で透明性の高い経営で社会の信頼に応えます
- ・働きがいと公正な機会のある職場を作ります
- ・地域社会の一員としてSDGsの達成に貢献します

行動規範

- ・社会倫理を重んじ規律・約束を守ります (倫理観)
- ・自ら考え、自ら計画し、自ら行動します (主体性)
- ・志を高く、枠を超えて、仕事に取り組みます (チャレンジ)
- ・対話を大事にし、思いと方向性を共有します (同心協働)



経営方針

この経営方針は、経営理念「わたしたちは環境関連事業を通して社会の持続的発展に貢献します」を実現するため、経営における課題とチャンスを読み、定期的に見直し、経営システムを継続的に改善します。また、事業団で働く全ての人に周知を行い、公開します。

【行動指針】



- ・安全衛生と健康を第一に、法令等を遵守し、SDGsを含む環境、5Sを常に意識し行動します
- ・各自の業務について、「ムダ・ムラ・ムリ」がないか見直し、ITの活用などにより活きる時間の創出に取り組みます
- ・2030年温室効果ガス排出量20%削減(対2028年度推計値)、2050年カーボンニュートラル達成に向け、環境負荷削減に取り組みます

【重点施策】

1. 資源循環



- ・水島処分場において、長期的な処分場の安定的確保のため、第2処分場の供用期間を延長するための各種許可手続きを完了し、適正な管理運営を行うとともに、高上げ終了後も埋立処分事業を継続するための具体的な方向性を検討します
- ・水島クリーンセンターにおいて、安定的な操業を行い、下水汚泥の処理事業を持続するための新たな処理方法や施設の方向性を検討します
- ・みずしま資源再生センター「マーク」において、安定的な運転を行い、焼成品の無害化と安定化の処理技術を確立します
- ・資源選別所において、障害者の方が勤務する職場であることを前提に、安全・安心な管理運営・施設整備を進め、資源の有効活用に取り組みます

3. 環境創造



- ・事業団のブランド価値向上を目指し、脱炭素やSDGsに関連した国内外の重要課題を切口に、県内の地域社会を対象に持続可能性を高めるサービスの開発に取り組みます
- ・環境学習プラザ「アスエコ」において、イオンモール岡山や入店者との協働により、地球環境問題解決に繋がる新たな購買活動の促進に取り組みます
- ・津山リサイクルプラザにおいて、環境問題への取り組みを促進する拠点として機能するために、資源のリサイクルと環境学習の推進を図るとともに、新たな普及啓発に取り組みます

2. 環境調査分析



- ・分析単価の見直し等を行い経営基盤の安定化を図るとともに、情報提供と顧客ニーズの把握により、顧客サービスの充実に努めます
- ・自動分析装置の活用や作業手順の見直し等により、分析技術の更なる向上と効率化に努めます
- ・生物データベースの継続的な拡充、人材育成、宣伝活動等により、生産性の向上と新たな業務の開拓に努め、ブランド力の向上を図ります
- ・自然保護センターにおいて、魅力ある企画や情報発信、フィールドの活用により、利用者4万人以上の達成に向けて取り組みます

4. カーボンニュートラル



- ・事業者として温室効果ガス削減のための活動を行うとともに、地域に対してカーボンニュートラルを推進する普及啓発活動に取り組みます

2024年6月13日

公益財団法人 岡山県環境保全事業団

理事長

吉田 光宏

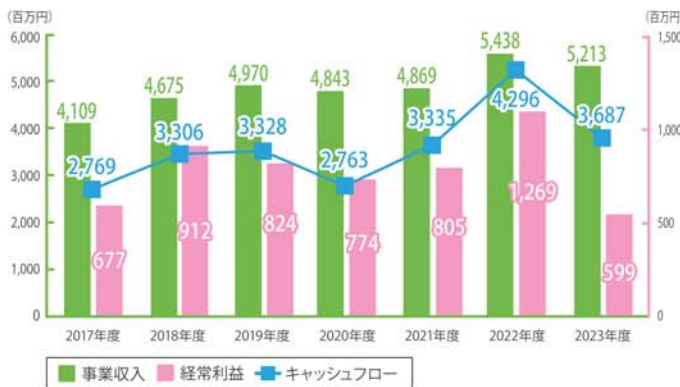


事業活動内容



財務ハイライト

■ 事業収入・経常利益・キャッシュフロー



経営状況・財務状況

・事業収入(売上高)は、埋立処分量、焼却処分量ともに前年度を若干下回った影響により、前年度より約2億円減少しましたが、50億円を超える売上を達成しております

・経常利益については、各事業における費用の精査・見直し、施設・設備の運転方法の改善、業務の効率化等により経費削減を図りましたが、前年度を下回る結果となりました

・キャッシュフロー残高は、一部を「みずしま資源再生センター」建設資金に充当したため、若干減少し、約37億円となっております



環境活動の実績



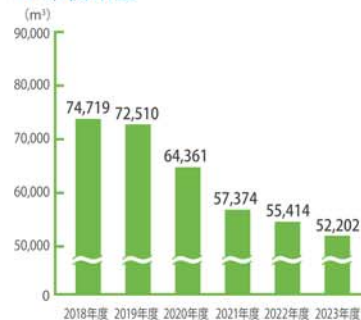
■ CO₂排出量



■ 一般廃棄物排出量



■ 水使用量



※1 購入電力排出係数: 2017~2020年度 0.706kg-CO₂/kWh(2014年度中国電力実排出係数)

2021年度 0.585kg-CO₂/kWh(2021年度中国電力調整後排出係数)

※2 内尾事務所、自然保護センターは2023年8月から中国電力の脱炭素電気の導入開始(CO₂排出係数0kg-CO₂/kWh)



みずしま資源再生センター(愛称：マーク)が竣工しました



竹原：マークは燃え殻やばいじんといった、これまで埋立処分したり、県外へ搬出して処理していた廃棄物を再資源化することにより、最終処分場の延命化や遠距離輸送による環境負荷低減を図り資源循環型社会に貢献します。

令和5年11月10日にマークの竣工式を行いました。担当としてどういう気持ちで迎えましたか。

森川：私は設計の終盤から参加させていただき、その後、約1年半にわたっての建設工事、そして3カ月の試運転を経ての竣工式だったため、一段落ついてホッとしました。一方で、今後は事業団の施設として安全・安定運転を行わなければならないという使命を感じました。

竹原：マークの安定操業に向けて皆さんとの苦労と努力を間近で見えてきましたが、特に困ったこと、解決に向けた対策を教えてください。

森川：処理対象物投入系の設備がうまく動かず、文字どおり入口で躓いた状態でした。しかし、課員が役割分担をし、

設備の電流値の変化を見たり、処理対象物の物性を調査することにより、処理対象物の含水率がトラブル回避に寄与する事を突き止めることができました。

竹原：安全・安心・安定した操業を確実なものにするためには、今後も大小様々な問題が発生すると思います。コミュニケーションを密にし、皆で知恵を出し合って改善していきましょう。

森川：一つずつですが、設備改善であったり、作業効率、安全性向上と進化させていきたいです！



建設中の様子



完成写真



生物調査で新種の蛾を発見しました



岡山市との「生物多様性保全の推進に関する連携協定」において実施している生物調査で事業団設立50年のなかで初となる新種の昆虫を発見しました。

寺田: 今回発見した新種は5～6mmの小さな蛾で、私が特に専門としているニセマイコガ科というグループの中でも、幼虫がシダ類の胞子を食べるといった変わった習性を持つ一群に含まれます。

柿: 私も発見時の調査に同行してましたが、寺田さんはシダの裏を注意深く観察されてましたね。

寺田: 普段から生きものそのものだけでなく、痕跡にも注意して調査しています。今回の新種も成虫を発見したわけではなく、シダの裏にある幼虫の巣を見つけたんです。(写真1)

柿: 巣を発見した際、真っ先にシダの種類を聞いてくれましたね。

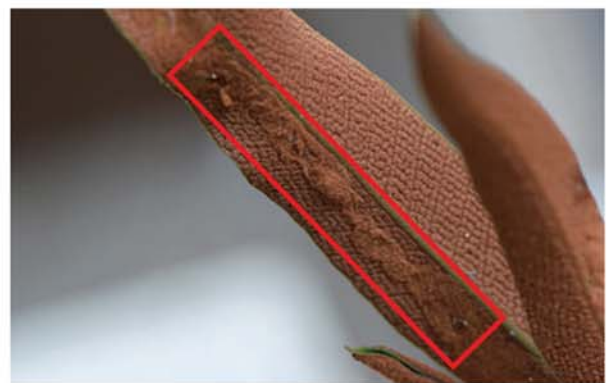
寺田: 実際のところ幼虫を見ても種類はわかりませんが、柿さんに教えてもらった種類のシダを食べる蛾の記録

に覚えがなかったんです。そこで、怪しいと、育ててみたところ、文献でも全く見たことのない外見で、もしかすると新種かもと思いました。

柿: 論文で公表することで新種として認識されると思いますが具体的に何をしたんですか？

寺田: 標本(写真2)を作り、解剖もして外見、交尾器などの形を細かく観察してと大変ですが見つけないことには始まりません。

柿さんにシダを教えてもらわなければ今回の発見もなかったと思うので日ごろの連携の賜物ですね。



【写真1】新種の蛾の巣(赤枠)



【写真2】標本
(ほぼ実際の大きさ)



1. 環境学習プラザ「アスエコ」

「アスエコ」は、地球環境の大切さに気づき、日々の行動を変えるきっかけの場となることを目的として、2007年に岡山市内に開設、運営を行ってきました。

より多くの方が地域環境を守る意識を持ち、行動に移すための啓発される場となることを目指し、2023年5月27日、イオンモール岡山に移転し、リニューアルオープンいたしました。

多くの方が訪れる商業施設に移転したことにより、小さなお子様連れのご家族からご年配の方まで、オープン後1年間の来場者数は7万人に達しております。

移転前は、既に環境問題に関心を持たれた方の来場が多く、そのつながりを構築する場にもなっていましたが、現在は、それらのつながりを活かしつつ、幅広い層の方の環境問題への関心を高める役割を担っております。

環境に関する様々なテーマの企画展や消費生活と結びついた常設プログラム、地域の様々なエコ情報パンフレットや本、雑誌、最新データによる地球環境のデジタル地球儀(スフィア)などを通じ、いつでも気軽に訪れることが出来る施設を目指してまいります。



アスエコ水族館とスフィア



スペシャルイベントの様子



SDGsカードゲームを用いた出前講座

■ 出前講座テーマ別実施件数

テーマ	実施件数(件)	参加人数(人)
温暖化	40	1,828
エネルギー	75	8,066
自然	113	3,972
ごみ	69	2,688
暮らし	37	1,710
持続可能な社会	28	1,055
その他	1	8
合計	363	19,327

2. 小中学校等への環境学習出前講座等

県やNPO等環境団体との協働により、県内の小中学校、高校、大学、一般県民などを対象とし、依頼内容に応じて、環境学習出前講座を363件実施しました。実施にあたっては、環境団体及び環境学習指導者として登録している105名(前年度末時点)の方と協働で実施し、プログラムは、「温暖化」、「エネルギー」、「自然」、「ごみ」、「暮らし」と「持続可能な社会」の6つのテーマを提供いたしました。(※「出前講座テーマ別実施件数」表参照)

対象は小学生など子ども向けが多いですが、持続可能な社会づくりにつながる大切な内容で広く実施しております。

3. 第10回おかやま環境教育ミーティングの開催

「おかやま環境教育ミーティング」とは、以下のようなことを目的として岡山県が主催する交流事業です。

- ・環境問題やその解決に興味、関心がある人同士がつながる場
- ・環境教育の意義ややりがいを共有し、お互いに学び合い高め合う場
- ・それぞれの環境教育活動を理解し認め合い、協働が生まれる場

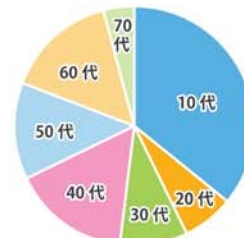
2023年度は、中学生から社会人まで298名の方が参加し、午前中は54団体のブース展示と交流、午後は、「干潟」や「気候変動」、「well-being」、「海ごみ」など11のテーマに分かれての分科会と全体交流を行いました。

当事業団は事務局として、世代と団体を越えた交流を広げる役割を担っております。



第10回おかやま環境教育ミーティングの様子

■ 参加者の年代



4. 廃棄物埋立跡地での植樹活動

水島処分場は貴重な瀬戸内海の一部を埋立していることから、豊かな緑の空間を創造し、快適な生物環境の保全に貢献するとともに、海側からの景観や眺望を良好にするために植樹活動を行っており、これまでの活動で約60,000㎡の緑地を整備しました。2023年度は倉敷市立旭丘小学校の4年生の皆さん(50名)がオリーブやアーモンドの苗木約200本を植樹しました。また、「水島処分場」や「水島クリーンセンター」などの施設見学や緑地に生息する生物に関する座学を通して資源や環境保全の大切さを学んでいただきました。



廃棄物埋立跡地への植樹



施設見学の様子

5. 職員の環境活動が地域の支援に

職員の自主的な環境取り組みを後押しするため、職員が取り組んだ環境活動に応じてポイントを還元する独自の制度を2009年度から運用しております。

2015年度からは、職員に還元したポイントと同等の金額を、地域の小中学校等に学習活動に必要な備品類の寄贈を行っております。

これにより、職員が環境活動を積極的に行えば行うほど、地域の子どもの学習環境の改善に貢献できる仕組みになっています。2023年度は、計7校に34万円相当の物品を寄贈いたしました。



学校への寄贈の様子



6. 津山圏域クリーンセンターリサイクルプラザ

リサイクルプラザでは、3R(Reduce、Reuse、Recycle)を軸とした環境問題の学びの機会を提供しています。地域の課題であるごみの減量化のほか、資源の有効活用やリサイクルの推進に関する普及啓発、施設見学やエコ体験等の環境学習、リユース品の整備・譲渡等、さまざまな活動を行っており、これらを通じて、自分ごととして考えて行動してもらえる気づきの場となるよう取り組んでおります。

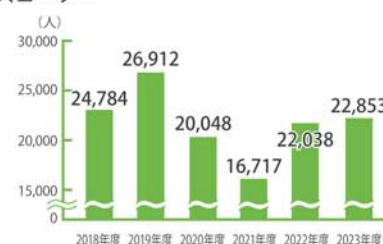
2023年度は、約23,000人の方にご利用いただきました。今後も岡山県北部における環境学習の拠点施設として“持続可能な社会の構築に貢献する人の育成”を行ってまいります。



施設見学とリユースコーナー



■ 来館者数





環境教育の取り組み



7. 岡山県自然保護センター

岡山県自然保護センターは、自然との触れ合いを通じて、自然への理解・保護についての認識を高めることを目的として、1991年11月、和気町田賀地区に岡山県がオープンしました。当事業団は2007年に岡山県より指定管理を受託しており、イベントの開催等による普及啓発活動を行っている他、自然保護に関する指導者の養成研修、情報の収集・提供、調査研究、ボランティアの養成、関連施設とのネットワークづくり等を積極的に行っています。また、国の特別天然記念物タンチョウ36羽を飼育しています。(令和5年度末)

多彩なイベントの開催

身近な自然に触れ合い、親しみ、学びが深まるよう、フィールドに生息生育する多種多様な生きものを対象とした観察イベントや、里山的な自然環境を活かした体験イベントを行っています。また、企画展では特色豊かな岡山県の自然や文化を独自の切り口で紹介したものや、遊びながら専門的な知識を学べる大型迷路など、センターならではの特別企画展も行っています。

センター年間利用者37,000人を達成！

当事業団が岡山県より自然保護センターの指定管理を受託し、2023年度で17年目となりますが、2023年度は受託後過去最多の37,818人の利用者を迎え入れることができました。また、2024年3月にはセンター開所以来の利用者100万人を達成することができました。

今後も引き続き、多くの方に利用いただけるように様々なイベントや企画展を開催してまいります。また、みどり豊かな自然環境の整備や生息生育する動植物の保全を行うと共に、施設内の見所がわかる案内マップの配布やSNS等での発信により利便性の向上を図り、利用者が気軽に訪れ、安全に楽しめるよう事業を行ってまいります。



カエル観察会



サバイバル講座(竹筒で炊飯)



タンチョウの散策:タンチョウフェスタ

■ 利用者数



脱炭素の取り組み



1. 岡山県地球温暖化防止活動推進センター

「岡山県地球温暖化防止活動推進センター」として、各地域の地球温暖化防止活動推進員と協働し、地球温暖化防止や環境情報の発信を行いました。また、地球温暖化防止のために、地球にやさしい生活に取り組む「アースキーパー」の普及啓発や、交流イベント「アースキーパーのつどい2023」を開催いたしました。



アースキーパーのつどい2023

2. エコアクション21 地域事務局

エコアクション21とは、環境省が策定した環境経営の仕組みを構築し、実践する事業者を登録する認証・登録制度です。

エコアクション21の取り組みは、国が推進する2050年に向けたカーボンニュートラルの実現に沿った取り組みで、SDGsの取り組みと共通する部分も多く、取り組みを通してSDGsに貢献することが可能です。

この制度を中国地域（山口県を除く）で推進するエコアクション21地域事務局として、2023年度は制度の普及・促進を目的とした営業活動（52件）、自治体主催のエコアクション21セミナーの開催（参加：60名）、自治体や企業と連携した新規認証・登録に向けた事業者向け研修会（参加：30社）を開催いたしました。



エコアクション21研修会の様子



3. おかやま環境フォーラム

2005年から開催しており、2023年度は高収益・高付加価値企業として名高いキーエンス出身のコンセプト・シナジー株式会社 代表取締役 高杉氏をお迎えし、顧客ニーズの捉え方や営業のしくみづくり、事業領域の見極め方などキーエンスの事例や、それらの付加価値向上の取り組みが、エネルギー生産性を高めることについて講演いただきました。



講演の様子(高杉 康成氏)

4. SDGs推進に向けた 中間支援

当事業団では、SDGsや脱炭素に関する取り組みを推進しております。そのような中、岡山県においてSDGsを推進するためには人づくりと仕組みづくりが重要であるとの考えのもと、行政と連携した地方創生の仕組みづくりを行っております。

瀬戸内市と包括連携協定を結び、SDGsのオリジナル学習プログラムを市および地元の県立邑久高校と連携して作成し、そのプログラムを用いた地域での小中学生に対する高校生による出張授業の仕組みづくりを支援しています。

この取り組みは、環境省の地域循環共生圏づくり事業としても採択されたほか、邑久高校が作成した活動映像は環境省が主催する2023年度の環境教育・ESD実践動画100選にも選ばれました。



高校生が地域の小学生に出前授業を行う様子



5. みずしま資源再生センターでの取り組み

県内での燃え殻・ばいじんの 再生(資源化)処理

これまで県内での焼却処理に伴い発生した燃え殻やばいじんの多くは資源化するために県外へ搬出されていましたが、みずしま資源再生センターで資源化を行うことで、県外への搬出量が低減され、遠距離運搬による温室効果ガスの排出量低減に寄与しております。

PPAモデルを活用した太陽光発電設備

PPAモデルを活用し、みずしま資源再生センターに隣接して整備したパネル容量約1.2MWの太陽光発電設備から発電電力を購入し、水島事業所での消費電力の一部として賄うことにより、電力使用に伴うCO₂発生量を約600t/年削減しております。

※PPA(Power Purchase Agreement)

発電事業者が設置した再エネ発電設備で発電した電気を、需要者が環境価値と一体的に調達し消費する契約形態

BDFを活用した焼成処理

みずしま資源再生センターにおける焼成処理の燃料は灯油を使用しておりますが、温室効果ガスの排気量削減のため燃料の一部をBDFへ置換する準備を進めており、2024年秋から運用開始する予定です。

※BDF(Bio Diesel Fuel)

廃食油などバイオマス由来の資源から作られ、軽油を代替する液体燃料



みずしま資源再生センター



みずしま資源再生センターに隣接した太陽光発電設備

6. 事務所ででの取り組み

事務所で使用する電気を100%脱炭素化いたします。電力会社との契約を見直し、水力発電や風力発電、太陽光などCO₂を出さない再生エネルギー由来の電気を選んで使用しています。内尾事務所、岡山県自然保護センターで使用する電気を脱炭素化することにより、年間240tのCO₂の削減ができます。

当事業団で使用する乗用車をPHV、EV等に更新時期の到来したものから順次移行しております。内尾事務所の駐車場には2箇所に充電スタンドを設置、訪問者の方にご利用いただけるものもございます。太陽光発電の活用や脱炭素電気を組み合わせることにより、車の移動に関わるCO₂の削減に努めます。



EVと充電スタンド

7. 水島クリーンセンターの取り組み

下水汚泥と高カロリーの廃プラスチック類を混焼し、廃棄物の減量化・安定化を行い、燃焼に伴う熱エネルギーを電気に変えることにより、水島事業所の消費電力の約70%～80%を賄っております。

施設管理

施設を安定的に稼働させるために日常点検を行い、異常箇所の早期発見に努めています。

2022年度からの3年間は秋季定期点検期間を利用し、大規模修繕工事を実施しており、2023年度は廃プラスチック供給コンベア、中央監視制御システムを更新いたしました。

廃棄物固形燃料(RDF・RPF)の活用

灯油などの化石燃料の代替燃料として、廃棄物を乾燥・破碎・成形した廃棄物固形燃料(RDF・RPF)を活用し、化石燃料の使用量削減と資源の有効活用に努めております。

有価物の回収・リサイクル

廃棄物焼却後の燃え殻に含まれる金属くず等を磁選機により選別・回収し、約130tの金属を回収し、リサイクルを行いました。

環境経営システム取得事業者の減免制度

2020年度より、エコアクション21やISO14001といった環境経営システムを認証・取得し、環境負荷の削減に取り組んでいるお客様に対して、処理・処分料金の減免制度を導入しております。



水島クリーンセンター



施設の運転管理

労働災害ゼロの職場づくり



1. 安全衛生活動

職員の安全と健康を確保し、快適な職場環境の実現を目指し、安全衛生パトロールやKY(危険予知)活動、ヒヤリハット共有活動などの各種安全衛生活動を推進しています。

2023年度は化学物質管理や救命救急等のセミナー開催や産業医による職場巡視を行い、法令順守やリスク管理、職場の労働環境改善のための活動に取り組みました。



救命救急セミナー



化学物質管理セミナー



倉敷市より優良産廃処理業者の認定を受け、安全性、信頼性の高い廃棄物埋立及び焼却処理、再生（資源化）処理を行っています。

1. 廃棄物埋立

廃棄物の受け入れから処理処分まで、一貫した管理体制で厳しくチェックしています。

また、処分場内の保有水は、排水処理場の高度な処理工程を経て協定等の厳しい排水基準をクリアするきれいな水に処理して排水しています。

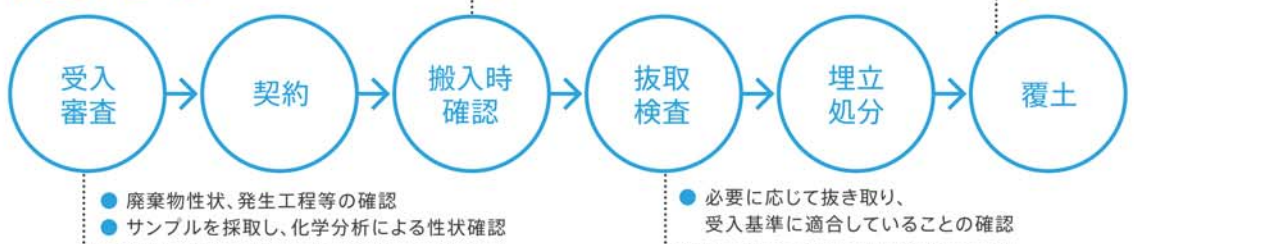
2018年7月の豪雨災害では、発生した災害廃棄物を迅速に処理するため、水島処分場を仮置き場及び処理プラントの敷地として提供しました。また、リサイクルできない廃棄物や選別後の土砂を約12万t受け入れました。

- 処理施設の種類：管理型最終処分場
- 埋立面積（容量）：約23万㎡（約460万㎡）
- 残容量：約233万㎡（2024年3月現在）



水島処分場と水島各施設

【処理フロー】



2. 焼却処理

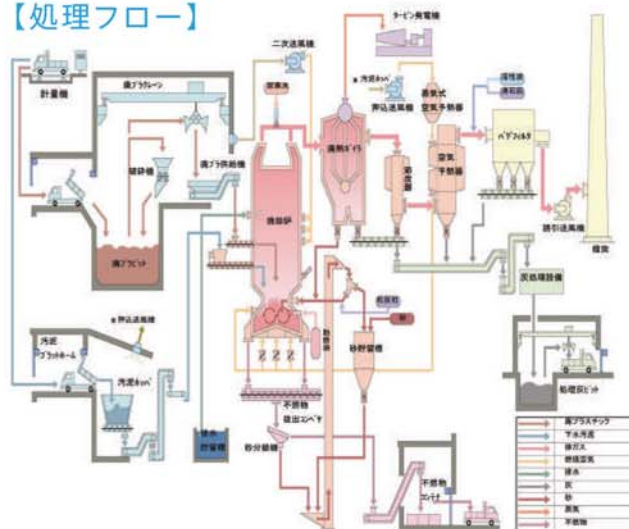
廃プラスチックビット内ではミスト噴霧による粉じんの抑制、汚泥ビット内ではシャッターとエアカーテンの設置等による臭気漏洩の抑制などの環境対策を行っています。

旋回型流動床焼却炉では、ダイオキシン対策として、炉内目標温度を900℃以上に設定し、燃焼ガスの滞留時間を2秒以上となるよう管理しています。

また、発生する燃焼ガスは高度な排ガス処理設備により処理し、クリーンな状態で大気に放出しています。

- 処理施設の種類：流動床式連続焼却施設
- 処理能力：汚泥420㎡/日、廃プラスチック類78t/日
紙くず163t/日、木くず194t/日、
繊維くず101t/日、ゴムくず67t/日
※処理能力は、設置許可に準ずる
- 発電能力：1,200kW

【処理フロー】



2023年度廃棄物処理実績

受託した産業廃棄物の処理量	中間処理量	72,697t
	中間処理後の産業廃棄物処分量	8,631t
	最終処分量	266,769t
受託した一般廃棄物の処理量	最終処分量	72t

3. 再生（資源化）処理

排ガスは、減温塔で急冷することでダイオキシン類の再合成を抑制するとともに、活性炭・消石灰を噴霧し、バグフィルタで有害物質を除去します。さらに触媒や煙突内のスクラバで窒素酸化物や硫酸酸化物を除去し、大気中に放出します。

また、排ガス処理施設における各設備には、当該施設の最大排ガス量31,800Nm³/hを十分に処理できる能力を有しています。

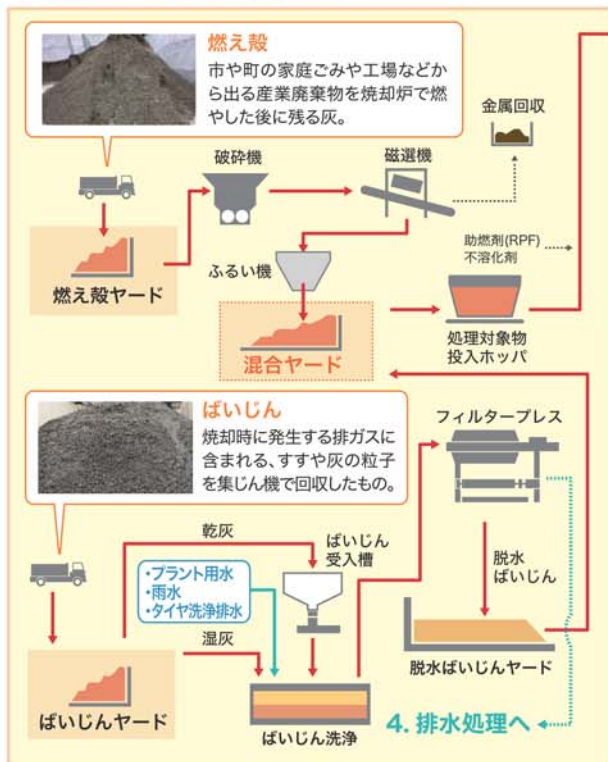
排水処理施設では、ばいじん洗浄設備フィルタープレスからのろ液、排ガス処理設備スクラバからの排水を処理しています。排水は次亜塩素酸ソーダにより窒素成分を分解除去し、その後、凝集剤やpH調整剤を添加し、重金属類等のSS成分を沈殿除去します。

さらに後段の砂ろ過処理及び活性炭処理により、残存する有害物質を吸着除去したうえで放流基準値内に収まるよう中和処理し、海域へ放流します。また、排水処理施設における各設備は、当該施設の最大排水量500m³/日を十分に処理できる能力を有しています。

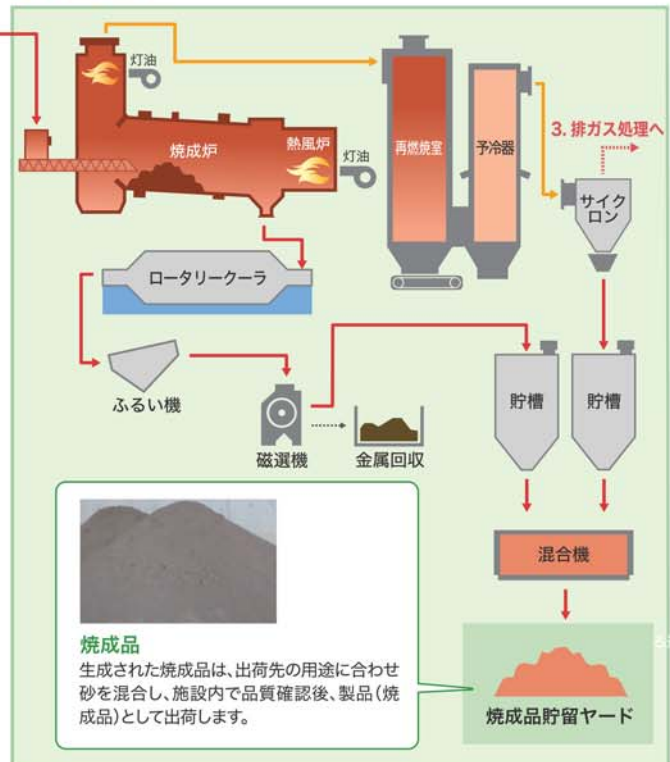
- 受入対象物：燃え殻、ばいじん
- 処理方式：焼成
- 処理能力：混合灰153.6t/日、燃え殻144.0t/日、ばいじん164.6t/日

【処理フロー】

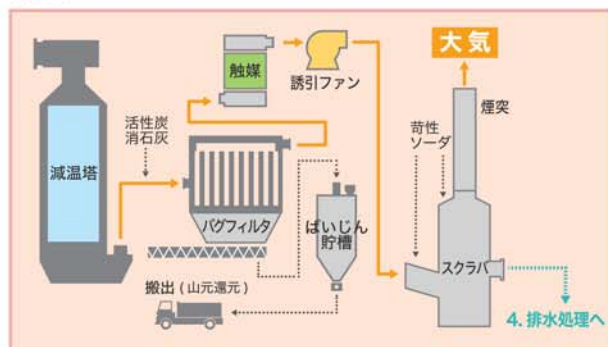
1 燃え殻・ばいじん前処理



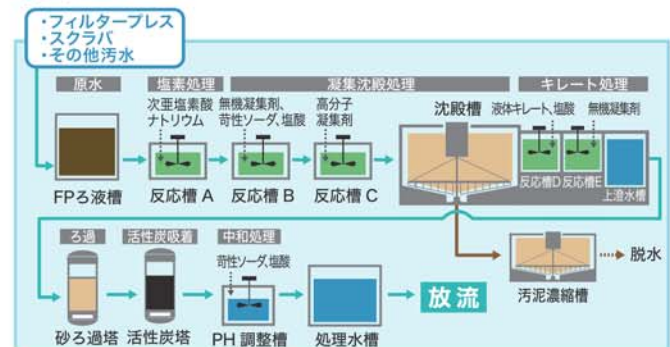
2 焼成工程



3 排ガス処理



4 排水処理



処理対象物の流れ → 排ガスの流れ → 排水の流れ → 汚泥の流れ →



4. 廃棄物のマッチングコーディネート

「岡山県循環資源総合情報支援センター」として、循環資源に関する情報の発信や廃棄物の削減に取り組みました。今後も、下記の事業を通し、事業者の廃棄物削減や廃棄物の有効活用の支援に取り組みます。

循環資源マッチングシステム

資源として利活用できる廃棄物の登録数（登録資源数）の増加及び提供する事業者と利用する事業者のマッチングに取り組み、2023年度は11件のマッチングが行われました。

中小企業3R推進アドバイザー派遣

事業者の3R推進を目的に、アドバイザーを年間約70件派遣し、3R推進や廃棄物の有効活用等に関する助言を行いました。

■ 斡旋・成立数

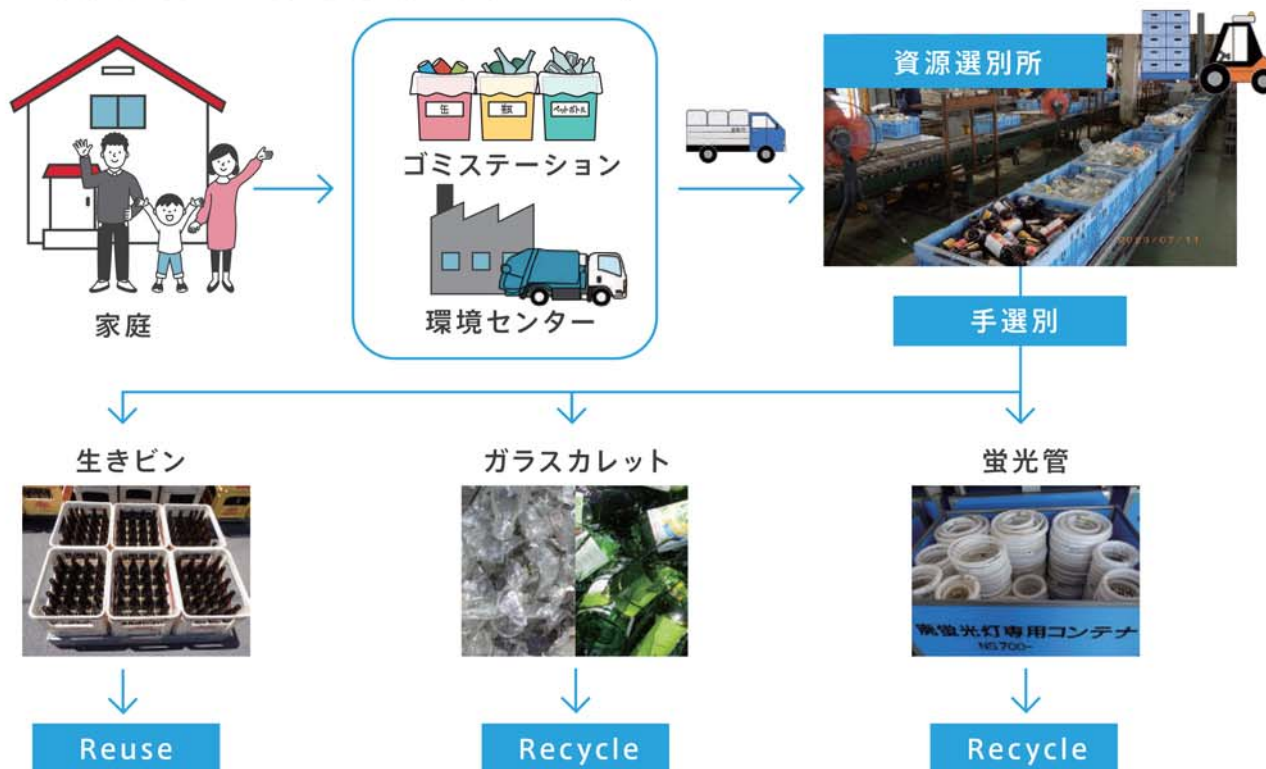


■ 循環資源登録数



5. 倉敷市資源選別所の取り組み

1996年から水島処分場の埋立跡地の一角に倉敷市が整備した施設において、知的障がい者支援の一環として、NPO法人と協働しながら、倉敷市の家庭から出されたびん類をリターンルびんとカレット（色別）に選別しています。また、2017年からは蛍光管の選別も行っています。2023年度の処理量は、びん類と蛍光管を合わせ、1,939.0tでした。





1. 環境調査・分析による環境改善支援

調査・分析機関として、多様化する環境問題や社会ニーズに対応するため、30by30アライアンスへの参画、環境アセスメントや自然環境調査、低濃度PCB・肥料成分・PFOS/PFOAの分析、アスベスト調査など業務の幅を広げています。分析事業では、年間約7,500検体の依頼に対応しています。



試験所：公益財団法人岡山県環境保全事業団 環境調査分析部
 認定範囲：化学試験・産業廃棄物分析（産業廃棄物に含まれる金属等の検定方法）
 Cd:JIS K 0102 55.3(2016)・Pb:JIS K 0102 54.3(2016)・Se:JIS K 0102 67.3(2016)

分析品質の向上

試験所能力の国際規格(ISO/IEC17025)の認定を取得しています。また、分析技術や調査技術の向上に向け、職員の資格取得を推進しています。2023年度は環境計量士、臭気判定士、一般建築物石綿含有建材調査者など、8名の職員が新規資格を取得しています。

顧客サービスの向上

ホームページ内で、知りたい情報をすぐに見つけることができるように、メニューのカテゴリー分けを行っています。また、調査・分析に関連するFAQ（よくあるご質問）を掲載したり、定期的にメールマガジンを配信するなど利便性の向上に努めています。

★定期的にメールマガジンの配信を行っています。



メールマガジン
登録



バック
ナンバー

環境分析業務	
水質試験	土壌・改良土試験
廃棄物試験	肥料試験
悪臭試験	PCB試験

環境調査業務	
環境アセスメント	土壌汚染調査
騒音・振動調査	自然環境調査
その他調査	

リニューアル後のホームページメニュー



分析室

安心して働き続けることのできる 職場づくり



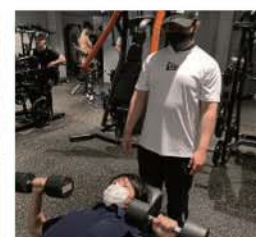
1. 職員への健康サポート

「安心して働き続けることのできる職場づくり」を重要な経営課題と位置づけ、健康経営の取り組みを推進しています。食の栄養バランスについて考える健康セミナーの開催やスマートフォンアプリを活用した部署対抗のウォークラリーイベントの開催など、職員が楽しみながら健康増進に取り組むための各種施策を推進しました。

また、新たにフィットネスジムと法人契約を交わし、職員が好きな時に交流しながらトレーニングできる環境を整備しました。これらの取り組みにより2020年度は全国平均より高かった血圧の有所見率が年々改善されています。



健康セミナー



トレーニング風景



環境負荷削減目標(2023~2024年度)、 取り組み結果(2023年度)

	単位	2023年度	2023年度	2024年度
		目標	実績	目標
二酸化炭素排出量 ※1	t-CO ₂	33,338	29,833	33,005
省エネルギー(内尾事務所)	原油換算kL	101.21	99.65	98.65
省エネルギー(水島事業所) ※2	原油換算kL/千t	24.96	17.24	17.07
省エネルギー(環境学習プラザ)	原油換算kL	4.82	3.07	3.04
省エネルギー(倉敷市資源選別所)	原油換算kL	10.58	9.87	9.87
省エネルギー(自然保護センター)	原油換算kL	18.06	15.49	16.20
省エネルギー(津山圏域クリーンセンターリサイクルプラザ)	原油換算kL	0.126	0.07	0.12
一般廃棄物排出量	kg	3,014.6	2,189.7	2,339.5
水、浄水使用量(自然保護センターを除く)	m ³	14,518	13,574	13,462
水、浄水使用量(自然保護センター)	L/人	43.62	31.40	39.65
化学物質	—	適正管理		

※1 購入電力排出係数は0.585kg-CO₂/kWhとする

※2 水島事業所は排水処理場、水島クリーンセンター、水島処分場を含む。原単位原油換算(kL)/汚泥+廃プラスチック類(千t)で設定

※3 みずしめ資源再生センターは次年度より開始、本年度は含まない

※4 内尾事務所、自然保護センターは2023年8月から中国電力の脱炭素電気の導入開始(CO₂排出係数0kg-CO₂/kWh)

※ 環境学習プラザは2023年5月末イオンモール岡山に移転



本業に関する目標(2024~2026年度)

部 署	活動テーマ	3か年活動計画		
		2024年度	2025年度	2026年度
総務部	DX推進に向けた環境整備とマネジメントシステムの見直し	・グループウェアのクラウド化 ・電子決裁システムのクラウド化 ・ChatGPT利用率50% (全プロパー職員数に占める割合) ・全体会議の電子化に向けた一部試行 (部所長会議・安全衛生委員会) ・売掛金管理システム導入完了	・全団会議の電子化 ・支出管理システムの導入 ・ChatGPT利用率100% (全プロパー職員が使用) ・マネジメントシステム運営に かかる工数10%削減(2023年度比)	・内尾事務所クラウドPBX化 (固定電話→スマホ化) ・予算管理システムの導入 ・マネジメントシステム運営に かかる工数20%削減(2023年度比)
	人的資源の価値向上とウェルビーイングな職場づくり	・人事評価制度見直し完了 ・人材育成体系の一部見直し完了	・人材育成体系の見直し完了 ・ウェルビーイングアンケート結果 10%向上	・人員配置計画完成 ・ウェルビーイングアンケート結果 20%向上 ・内尾事務所レイアウト見直し工事完了
	カーボンニュートラル	・太陽光発電設備増設 ・内尾事務所2、3F 事務スペースの断熱化に向けた 基本設計完了	—	—
資源循環 事業部・ 水島事業所	公共関与産業廃棄物処分事業の新たな方向性の策定	・安定的な管理運営を継続 ・埋立機関の伸長手続き完了 ・安定的な処分容量を確保する 方策の検討に着手	・安定的な管理運営を継続 ・安定的な処分容量を確保する 方策の検討を継続	・埋立竣工の手続きを完了 ・具体的な方向性の決定
	下水汚泥廃棄物処理事業の新たな方向性の策定	・安定的な運転を継続 ・汚泥ストックヤードの完成と 運用の開始 ・下水汚泥の堆肥化の検討に着手 ・新たな処理方法や施設の方向性の 検討に着手	・安定的な運転を継続 ・下水汚泥の堆肥化の試験製造に着手 ・新たな処理方法や施設の方向性の 検討を継続	・安定的な運転を継続 ・下水汚泥の堆肥化の可能性を判断 ・具体的な処理方法や施設の方向性 など決定

部 署	活動テーマ	3か年活動計画		
		2024年度	2025年度	2026年度
資源循環事業部・水島事業所	焼却灰資源再生事業の基盤確立	・処理依頼への円滑な対応 ・安定的な運転の確立 ・CO₂発生量を抑制する対策の導入 ・焼成品の品質を確保	・安定的な運転の確立 ・焼成品の品質を確保 ・焼成品の用途を検討	・安定的な運転の継続 ・設備保全のための維持管理計画の立案 ・焼成品の品質を確保 ・焼成品の用途を検討
	カーボンニュートラル	・水島クリーンセンターの安定操業と効率的な運転管理による灯油使用量の削減 ・CO₂発生量を抑制する対策の導入 ・みずしま資源再生センターのBDF運用開始 ・太陽光発電による購入電気量の削減：PPA購入量1,000MWh/年以上	—	—
環境調査分析部	顧客サービスの充実と経営基盤の安定化	・経営推進会議(1回/月) ・顧客訪問件数(年間50件以上) ・標準料金表の改定 ・労務費等の見直し及び価格改定	・経営推進会議(1回/月) ・顧客訪問件数(年間100件以上) ・ホームページ(業務内容)のリニューアル ・収益状況の整理及び今後の対応策等の検討	・経営推進会議(1回/月) ・顧客訪問件数(年間100件以上) ・チラシ(営業品目)のリニューアル ・収益状況の整理及び今後の対応策等の検討
	生物データベースの拡充とその活用による生産性・分析力の向上と顧客とのパートナーシップ関係の構築	・データベース拡充と活用 ・人材育成及び宣伝活動の計画立案、実施	前年度計画の継続実施	・データベースの既存・新規業務での活用 ・宣伝活動による業務委託や相談件数増加
	分析業務の生産性を高める取り組み	・分析や試料採取の標準作業手順書の改正・作成対象の計画(10件/年) ・内部精度管理の計画作成、実施 ・資格取得支援制度を活用した業務に関係する資格取得に向けた学びの推奨 ・作業手順の見直し、自動分析装置の導入計画(2項目/年)	・分析や試料採取の標準作業手順書の改正・作成対象の計画(10件/年) ・内部精度管理の計画作成、実施 ・資格取得支援制度を活用した業務に関係する資格取得に向けた学びの推奨 ・作業手順の見直し、自動分析装置の導入計画(2項目/年)	・分析や試料採取の標準作業手順書の改正・作成対象の計画(10件/年) ・内部精度管理の計画作成、実施 ・資格取得支援制度を活用した業務に関係する資格取得に向けた学びの推奨 ・作業手順の見直し、自動分析装置の導入計画(2項目/年)
自然保護センター	多様な事業運営と持続的なフィールド整備による利用者の増加	・安定的に利用者35,000人以上を達成 ・多様な利用者が楽しめる企画の実施 ・持続的なフィールド基盤整備 ・第5期指定管理業務の受託	・安定的に利用者35,000人以上を達成 ・多様な利用者が楽しめる企画の実施 ・持続的なフィールド基盤整備 ・教育施設や企業と連携した企画の実施	・利用者40,000人を達成 ・多様な利用者が楽しめる企画の実施 ・持続的なフィールド基盤整備 ・教育施設や企業と連携した企画の実施
環境創造部	脱炭素・SDGs分野における新たな事業の開発	・環境創造事業での新たな受注額300万円以上 ・アスエコ・津山リサイクルプラザの新規受注金額及び寄付等100万円以上	・事業により削減した温室効果ガス500t以上 ・環境創造事業での新たな受注額500万円以上 ・アスエコ・津山リサイクルプラザの新規受注金額及び寄付等300万円以上	・事業により削減した温室効果ガス1,000t以上 ・環境創造事業での新たな受注額1,000万円以上 ・アスエコ・津山リサイクルプラザの新規受注金額及び寄付等500万円以上
環境学習プラザ・津山圏域クリーンセンター	カーボンニュートラル	・カーボンニュートラル関連の施策・補助金情報の発信・提供回数1回以上	—	—



本業に関する目標取り組み結果(2023年度)

【評価】○達成、△一部未達成、×未達成

サイト・部署	取り組みテーマ	2023年度目標(到達点)	評価	目標達成状況
総務部	職員の力量強化と働きやすい職場づくり	・職員一人あたりの健康取り組み項目数(運動、食習慣、休養、禁煙、禁酒・節酒)の向上 2022年度実績 1.5項目/人	○	・2023年度実績 2.5項目/人
	生産性向上、情報セキュリティ管理、事業継続計画の推進による経営リスク削減	・部内定型業務2022年度比700時間以上削減(2022年度実績 8,600時間) ・情報漏洩を想定した事業継続計画策定完了	○	・2022年度比867時間削減(2023年度実績 7,733時間) ・事業継続計画策定完了
	カーボンニュートラル	・太陽光発電設備の導入を3月までに実施 ・脱炭素電気を12月までに導入	△	・太陽光発電設備の導入を延期 発注する仕様の検討に時間を要し、今年度中の施工が困難なため予防措置対応 ・脱炭素電気の導入完了(8月から切替)
資源循環事業部・水島事業所	廃棄物埋立処分事業の継続性確保	・第2処分場変更計画の許認可手続き ・竣工に向けた工事の実施 ・廃棄物管理システムのリニューアル	○	・許認可手続き完了 ・今年度計画予定工事の完了 ・廃棄物管理システム本年度計画分の導入完了
	下水汚泥廃棄物処理事業の継続	・各自治体との下水汚泥搬入協定の締結 ・事業継続に必要な工事の実施 ・汚泥ストックヤードの整備	○	・下水汚泥搬入協定締結完了 ・事業継続に必要な計画分の工事完了 ・汚泥ストックヤードの整備:実施設計及び許認可手続き完了
	資源化施設の供用開始	・供用開始に向けた許認可手続き ・ユーティリティ関係整備 ・建設工事の完了及び試運転の実施	○	・許認可手続き完了 ・ユーティリティ関係整備は、受電設備・受排水設備ともに完了 ・試運転を完了し営業運転開始
	カーボンニュートラル	・太陽光発電設備を年度内に工事完了 ・BDF導入に係る工事を年度内に着工	○	・太陽光発電設備設置工事完了(3/1から運用開始) ・BDF導入に係る工事契約を締結
環境調査分析部	パートナーシップの推進	・パートナーシップ推進会議(1回/月) ・顧客対応ツール(業務品目、各種基準等含む小冊子)の作成 ・顧客訪問:年間100件以上	○	・推進会議 1回/月開催 ・顧客対応ツール作成完了 ・訪問件数年間120件実施
	生物調査機関としての技術及び信頼性向上	・資料調査及び現地調査の実施 ・計画に基づくデータベース構築 ・アウトプットの形成 ・新技術導入・人材育成の実施	○	・岡山市との連携協定に基づいた調査計画の作成、現地調査の実施 ・協定で実施した調査結果及びデータ入力(アセス書11冊分) ・GISデータベースシステムの改良、自治体向け宣材の作成 ・GISソフト(ArcGIS)の研修受講
	分析業務の生産性を高める取り組み	・分析や現場作業手順書の作成計画立案、完了(10件/年) ・内部精度管理計画作成、実施完了 ・資格・対象者選定、受験(5名/年以上) ・自動分析装置等の計画的な導入検討(2項目/年)	○	・対象とした19項目の作業手順書作成・改定完了 ・内部精度管理計画作成・実施完了 ・資格取得 計8名合格
自然保護センター	フィールド整備の充実	・フィールド整備マニュアルの運用 ・樹林地管理 ・水生植物園、昆虫の森の整備	○	・フィールド整備マニュアル改訂完了・運用 ・既開伐区域の継続調査の研究報告取りまとめ ・水生植物園、昆虫の森整備マニュアル改訂完了
	効果的な事業運営による利用者の増加	・利用者40,000人以上 ・SNS、研究報告の運用の定型化 ・第5期指定管理テーマ洗い出し	○	・利用者:37,818人 ・見つけロードマップなどの継続的発行やインスタグラムなど情報発信を定期的に実施 ・2024年度秋に向けて引き続き指定管理テーマの内部協議実施
	カーボンニュートラル	・省エネ機器導入の検討・実施	○	・施設内照明、一部LED化実施 ・社用車更新の情報収集
環境創造部	環境学習の充実とSDGs事業の展開	・環境学習プラザアスエコへの来場者・イベント参加者合計数:10,000人以上 ・環境学習出前講座 外部派遣率 90%以上、時間外労働時間の削減 昨年度比 30%以上 ・SDGsに関連した収益事業の開発・試行1件以上	○	・来場者数 65,286人 ・環境学習出前講座 外部派遣率 96.1%、時間外労働時間削減昨年度比 35% ・SDGsに関連した収益事業の開発試行 4件
	脱炭素社会への更なる推進	・市町村、企業等との連携方策の具体化(セミナー実施2回) ・職員の力量向上(10回) ・アースキーパーメンバーシップ会員 15,500人以上	○	・セミナー等の実施 2回 ・職員の力量向上 17回参加 ・アースキーパーメンバーシップ会員 15,535人
	EA21認証登録の普及促進	・認証・登録企業数264件以上 ・IP参加者数 15社以上、歩留まり率60%以上 ・営業活動:50件以上 ・EA21営業・連携等からの環境創造部事業受託 1件以上	○	・認証・登録企業数 278件 ・IP参加者数18社、歩留まり率70%以上 ・営業活動 52件 ・環境創造部事業受託 1件
環境学習プラザ	カーボンニュートラル	・J-クレジット(もしくは非化石証書・グリーン電力証書)の導入検討	○	・J-クレジット及びグリーン電力証書の導入実施計画策定
津山園域グリーンセンターサイクルプラザ	カーボンニュートラル	・社用車の電気自動車導入検討	○	・電気自動車導入検討完了

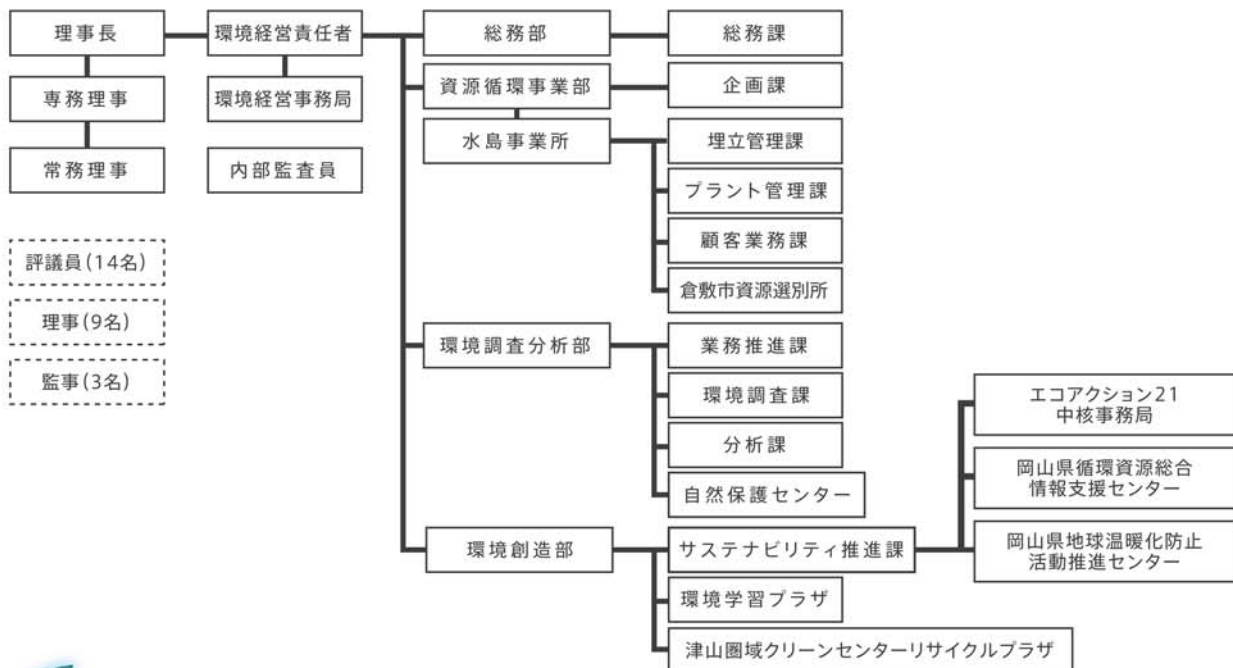


代表者による全体の評価と見直し指示

- 経営方針** 第7期中期経営計画(2024～2026年度)のスタートに合わせ、経営方針を見直し、2024年4月1日付で改訂する
- 目標設定** 2030年ビジョン達成可能性を高めるために以下の3点を検討し、実施すること
 ①ビジョン、中期経営目標について、各部門において明確に職員が内容を理解のうえ取り組めるよう周知徹底すること
 ②目標達成に向け、定量化等により活動計画の到達点を明確にするとともに適正な役割分担を定めること
 ③既存業務については、本来の目的を認識のうえ、自動化、デジタル化により大幅な効率化を目指すこと
- 情報発信** 本業による「持続可能な開発目標(SDGs)への取り組み」、「カーボンニュートラル目標達成に向けた取り組み」等について、積極的に外部発信すること
 また、事業団内部においても各部活動を発信するとともに、取り組みを共有、水平展開し、事業団全体のスパイラルアップを図ること
- 実施体制** 変更なし



実施体制・組織図



環境法規等の遵守状況

環境負荷を低減するため、可能な限り法規制よりも厳しい自主管理基準を設定し、定期的に環境関連法規の確認(年2回)を実施しています。過去3年間、環境関連法規違反、関係機関等からの指導、指摘、訴訟は1件もありません。

対象法令等一覧

法的及びその他の要求事項 対象法令等		
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律	地球温暖化対策の推進に関する法律
岡山県環境への負荷の低減に関する条例	大気汚染防止法	水質汚濁防止法
騒音規制法	振動規制法	土壌汚染対策法
瀬戸内海環境保全特別措置法	悪臭防止法	浄化槽法
特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)	使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)
毒物及び劇物取締法	ダイオキシン類対策特別措置法	消防法(危険物関連)
高圧ガス保安法	放射線同位元素等の規制に関する法律	自然公園法
公有水面埋立法	岡山県環境影響評価等に関する条例	岡山県循環型社会形成推進条例
労働安全衛生法	公害防止協定・環境保全協定(倉敷市)	水質汚濁に係る環境基準について
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)		
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン排出抑制法)		



許可事項

1. 廃棄物関連

【産業廃棄物処分業許可:水島処分場・水島クリーンセンター・みずしま資源再生センター】

許可年月日及び許可番号	2023年9月15日 第10040005888号
許可の有効期限	2030年3月26日
事業区分	中間処理(焼却) 最終処分(埋立)
廃棄物の種類	【焼却】 燃え殻、汚泥、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、ばいじん(これらのうち石綿含有産業廃棄物及び水銀使用製品産業廃棄物を除き、水銀含有ばいじん等(水銀の回収が必要なものを除く)を含む) 【埋立】 燃え殻、汚泥(無機性汚泥に限る)、廃油(タールピッチ類に限る)、廃プラスチック類(自動車等破砕物を含む)、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず(自動車等破砕物を含む)、ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く)・陶磁器くず(自動車等破砕物を含む)、鉱さい、がれき類、ばいじん、産業廃棄物を処分するために処理したもの(これらのうち石綿含有産業廃棄物、水銀使用製品産業廃棄物、水銀含有ばいじん等を含む)

【特別管理産業廃棄物処分業許可:水島処分場・みずしま資源再生センター】

許可年月日及び許可番号	2023年9月15日 第10090005888号
許可の有効期限	2029年7月20日
事業区分	中間処理(焼却) 最終処分(埋立)
廃棄物の種類	【焼却】 特定有害産業廃棄物 燃え殻(カドミウム又はその化合物、鉛又はその化合物、六価クロム化合物、砒素又はその化合物、セレン又はその化合物若しくはダイオキシン類を含むことのみにより特定有害産業廃棄物となるものに限る) ばいじん(水銀又はその化合物(アルキル水銀化合物及び水銀の回収が必要なものを除く)、カドミウム又はその化合物、鉛又はその化合物、六価クロム化合物、砒素又はその化合物、セレン又はその化合物、1,4-ジオキサン若しくはダイオキシン類を含むことのみにより特定有害産業廃棄物となるものに限る) 【埋立】 廃石綿等

【産業廃棄物処理施設設置許可:水島クリーンセンター】

許可年月日及び許可番号	1997年2月10日 第3-(3)-2号
施設の種類の	汚泥の焼却施設、廃プラスチック類の焼却施設
廃棄物の種類	【焼却】 汚泥、廃プラスチック類(これらのうち石綿含有産業廃棄物、水銀使用製品産業廃棄物及び水銀含有ばいじん等を除く)
処理能力	汚泥420m ³ /日、廃プラスチック類78t/日

【産業廃棄物処理施設設置許可:水島クリーンセンター】

許可年月日及び許可番号	2010年2月25日 第(13の2)-K04号
施設の種類の	産業廃棄物の焼却施設
廃棄物の種類	【焼却】 紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず(これらのうち石綿含有産業廃棄物、水銀使用製品産業廃棄物及び水銀含有ばいじん等除く)
処理能力	紙くず163t/日、木くず194t/日、繊維くず101t/日、ゴムくず67t/日

【一般廃棄物処理施設変更許可:水島処分場 第1処分場】

許可年月日及び許可番号	2003年3月20日 第200001号
施設の種類の	最終処分場
廃棄物の種類	【埋立】 一般廃棄物溶融スラグ、ばいじん

【一般廃棄物処理施設変更許可:水島処分場 第2処分場】

許可年月日及び許可番号	2006年11月21日 第100002号
施設の種類の	管理型最終処分場
廃棄物の種類	【埋立】 一般廃棄物(有機性のものを除く)

【産業廃棄物処理施設変更許可:水島処分場 第2処分場】

許可年月日及び許可番号	2023年3月24日 第(14のハ)-K01号
事業区分	管理型最終処分場(海面埋立)
廃棄物の種類	【埋立】 燃え殻、汚泥(無機性汚泥に限る)、廃油(タールピッチ類に限る)、廃プラスチック類(自動車等破砕物を含む)、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず(自動車破砕物を含む)、ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く)及び陶磁器くず(自動車等破砕物を含む)、鉱さい、がれき類、ばいじん、産業廃棄物を処分するために処理したもの(これらのうち石綿含有産業廃棄物、水銀使用製品産業廃棄物及び水銀含有ばいじん等を含む)、廃石綿等

【産業廃棄物処理施設設置許可:みずしま資源再生センター】

許可年月日及び許可番号	2021年12月8日 第(13の2)-K10号
事業区分	産業廃棄物の焼却施設
廃棄物の種類	【焼却】 1.産業廃棄物 燃え殻、ばいじん(これらのうち、石綿含有産業廃棄物及び水銀使用製品産業廃棄物を除き、水銀含有ばいじん等(水銀の回収が必要なものを除く)を含む) 2.特別管理産業廃棄物 (1)特定有害産業廃棄物 ア 燃え殻(カドミウム又はその化合物、鉛又はその化合物、六価クロム化合物、砒素又はその化合物、セレン又はその化合物若しくはダイオキシン類を含むことのみにより特定有害産業廃棄物となるものに限る) イ ばいじん(水銀又はその化合物(アルキル水銀化合物を除く)、1,4-ジオキサン、カドミウム又はその化合物、鉛又はその化合物、六価クロム化合物、砒素又はその化合物、セレン又はその化合物若しくはダイオキシン類を含むことのみにより特定有害産業廃棄物となるものに限る)

【一般廃棄物処理施設設置許可:みずしま資源再生センター】

許可年月日及び許可番号	2021年12月8日 第100007号
施設の種類	一般廃棄物の焼却施設
廃棄物の種類	【焼却】 燃え殻、ばいじん

2. 環境調査関連

【計量証明事業登録】

登録年月日及び登録番号	1976年1月17日 岡山県 第6-1号
事業区分	濃度に係る計量証明の事業

登録年月日及び登録番号	1994年3月31日 岡山県 第8-1号
事業区分	振動加速度レベルに係る計量証明の事業

登録年月日及び登録番号	1976年1月17日 岡山県 第7-1号
事業区分	音圧レベルに係る計量証明の事業

【作業環境測定機関登録】

登録年月日及び登録番号	1977年5月26日 岡山労働局 33-5
-------------	-----------------------

【土壌汚染対策法に基づく指定調査機関】

指定年月日及び指定番号	2003年8月8日 岡山県 2003-33000-2001
-------------	-------------------------------

【ISO/IEC17025】

認定年月日	2009年6月12日
事業区分	RTL02920、化学試験、産業廃棄物分析(産業廃棄物に含まれる金属等の検定方法)

3. 指定管理

【岡山県自然保護センター】

開始年月日及び指定管理期間	2007年4月1日～2025年3月31日
事業区分及び業務	岡山県公の施設指定管理者制度、施設等の管理・運営業務

4. その他

岡山県地球温暖化防止活動推進センター	【指定年月日】2002年5月30日	岡山県知事指定
岡山県循環資源総合情報支援センター	【指定年月日】2004年3月26日	岡山県知事指定
エコアクション21地域事務局	【認定年月日】2015年3月11日	認定番号 1-060

事業所一覧



内尾事務所

〒701-0212
岡山県岡山市南区内尾665-1
TEL.086-298-2122
FAX.086-298-2496



津山圏域クリーンセンター リサイクルプラザ

〒709-4611
岡山県津山市領家1446
TEL.0868-57-0153
FAX.0868-57-2226



水島事業所

〒712-8074
岡山県倉敷市水島川崎通1-18
TEL.086-440-0666
FAX.086-444-2933



倉敷市資源選別所

〒712-8074
岡山県倉敷市水島川崎通1-18
TEL.086-447-4850
FAX.086-444-4575



岡山県自然保護センター

〒709-0524
岡山県和気郡和気町田賀730
TEL.0869-88-1190
FAX.0869-88-1195



環境学習プラザ 「アスエコ」

〒700-0907
岡山県岡山市北区下石井1-2-1
イオンモール岡山6F
TEL.086-230-1333
FAX.086-230-1334

サステナビリティレポートについて

エコアクション21 環境経営レポートを含んでいます
本レポートに関するお問い合わせは、下記までお願いいたします

公益財団法人岡山県環境保全事業団総務部
〒701-0212 岡山県岡山市南区内尾665-1
TEL:086-298-2122 FAX:086-298-2496
URL:<https://www.kankyo.or.jp>



この印刷は、
水質保全に有効な
水素子印刷方式を
採用しています。



この印刷には
環境にやさしい
植物油インキを
使用しています。



当館のLED照明は100%再生紙を使用

ご意見・ご感想を
お聞かせください

岡山県環境保全事業団
サステナビリティレポート2024についての
アンケートにご協力をお願いします
(5分程度でご回答いただけます)



<https://forms.gle/Ysbii4M7tzngfLJo9>